

PDCAサイクル修得プログラム

参加者募集要項

■研修日程

令和8年8月31日（月）～9月2日（水） 3日間

■開催会場

アルカディア市ヶ谷（私学会館）

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25 TEL:03-3261-9921

<https://www.arcadia-jp.org/>

■募集定員

40名

※ 申込者多数の場合は、調整のうえお断りすることがありますので、予めご了承ください。

■募集対象

PDCA サイクルの概念を理解し、組織としての課題解決の実践理解を望む加盟大学の専任教員・職員で、お申し込みに当たり希望する「討議テーマ（3枚目下段参照）」について、所属大学の現状や課題等を把握している方。例えば、以下のような方。

○教務やFD等を担当し、教育課程や教育方法の改善に関心のある方

○政策企画・立案の中心的な立場にいる方

○自己点検・評価活動に携わっている、または関心がある方 等

※ プログラムでの修得内容を活用・実践するために、個々の組織単位で教員と職員の方が一緒に参加されることをお勧めいたします。

■参加要件

○全プログラム（事前レポート提出から事後レポート提出まで）に参加できる方。

※ レポートの提出も含めて全プログラムを修了した方には修了証を授与します。

○カメラ及びマイクが利用できるパソコンをご準備ください（パソコンでは、Zoom の他、学習管理システム（LMS）、Google ドキュメント等の共同で編集するソフトウェアを利用します）。

※ 会場の Wi-Fi に接続できるノート PC を持参してください。

■費用

参加費：1人につき40,000円（資料印刷費、交流会費用、準備・運営にかかる諸経費等）

※ 納入方法については、参加決定通知にてご連絡します。

※ 研修に伴う交通費、宿泊費等は、派遣大学でご負担ください。

■申し込み方法

別添の「研修参加申し込み方法」をご確認のうえ、所属大学の担当部署を通じてお申し込みください。

■申し込み期限

令和8年6月25日（木）17時締切

■参加者決定通知

7月中下旬を目途に大学宛てにお送りする予定です。なお、参加の可否にかかわらず、お申し込みいただいた「学内担当者」宛てに結果をお知らせしますので、7月末までに通知のない場合は、お手数ですが、事務局までご連絡ください。

■お問い合わせ先

一般社団法人日本私立大学連盟 教学支援課

e-mail: kenshu@shidairen.or.jp

電話：080-4917-0448／080-4917-1524

●プログラムの目的

グローバル化や少子化の進展など、大学をめぐる環境が大きく変化する中で、大学教育の質保証システムの整備は喫緊の課題と言えます。令和7（2025）年度以降の大学基準協会における認証評価においても、大学教育の質を保証する第一義的責任は大学自身にあるとし、大学は恒常的に「内部質保証」に取り組まなければならないとしています。そして、内部質保証とは、教育の企画・設計（具体的目標と計画の策定）から開始し、それに基づく行動を検証し、改善・向上に至る一連のPDCAサイクル<Plan（目標・計画）－Do（実践）－Check（点検・評価）－Action（改善）>を適切に機能させることであるとしています。しかしながら、個々の大学における改革には、目的が達成されているとは言えない、あるいは、点検・評価が機能しているとは言いがたいケースがあるようです。

本プログラムは、教育・研究分野に限らず、学生生活支援、キャリア支援、国際化業務など、大学改革につながるあらゆる課題を実効あるものとしていくため、その役割を担う教職員がPDCAサイクルを構築する手法・思考法・評価手法を実践的に修得し、これを大学現場において日々稼働させることを目的として実施いたします。

●プログラムの内容・到達目標

本プログラムでは、下記の2点の修得を目指します。題材として、自己点検・評価（報告書）を使用しますが、初めて自己点検・評価に触れる方にとっても有意義なプログラムです。

1. PDCAサイクルの構築手法・思考法の修得

（1）現状分析・計画策定・評価指標及び基準の設定

今後の大学改革には、実際に機能するPDCAサイクルを構築することが重要です。そのために不可欠なこととして、最初にPDCAサイクルのPlan（目標設定・計画）の段階において、以下の4点を決定する手法・思考法を学び、修得することを目指します。

- ①何を実現したいのか（現状分析、課題の抽出、目的の明確化、達成目標の設定）
- ②達成目標を実現するためにどのような共通認識をもって行動するのか（行動目標の設定）
- ③目標が達成されたことをどのようにして（何によって）測定するのか（評価指標の抽出）
- ④測定結果をどのような基準によって評価するのか（評価基準の設定）

（2）評価・分析及び改善策の策定

Plan（計画）及びDo（実践）を経て測定された成果の評価、分析を基にプロセスの改善や向上に必要な措置を次のPlanに結びつけるために、Check（点検・評価）、Action（改善）を実践的にを行い、目的の達成を目指します。

2. PDCAサイクルに基づく評価手法の修得

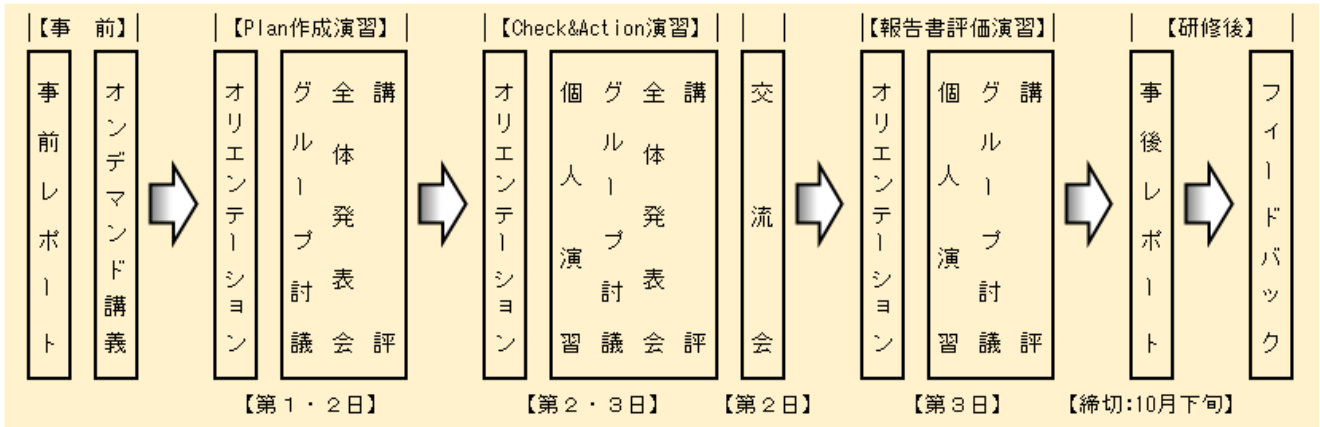
上記1に加え、実際に稼働しはじめた段階では、PDCAサイクルが機能しているかどうかを適正に評価する人材が必要となることから、PDCAサイクルに基づく評価手法についても修得を目指します。

このプログラムで学ぶPDCAサイクルの思考法・手法は、自己点検・評価報告書の作成はもちろん、以下のような大学業務のさまざまな場面で活用できます。

- 【職員の方は】
 - ・ 所属部署の業務改善
 - ・ 文部科学省等の外部資金によるプロジェクトの企画立案・申請・管理運営
 - ・ 内部質保証システムの運用、継続的な改善活動
 - ・ 認証評価の準備、評価結果の活用
 - ・ 法人経営（ミッションの実現、中長期計画・財務施設計画等の策定と運用）
- 【教員の方は】
 - ・ 研究プロジェクトの管理運営
 - ・ 学部・学科の運営等の教学マネジメントの実践
 - ・ 授業方法の改善
 - ・ カリキュラムの改善
 - ・ 学部・学科等の組織改編

●プログラムの流れ

※プログラム運営や時間配分は、参加申し込み状況に応じて変更が生じる場合があります。



1. 事前レポート【事前】

レポート（A4判1頁）を作成・提出していただきます。詳細は参加決定通知の際にご連絡します。

2. オンデマンド講義【事前】

オンデマンド講義（約 157 分）を視聴していただきます。詳細は参加決定通知の際にご連絡します。

演 題：「PDCA サイクルと大学における改革・改善のマネジメント」

講師：山本 幸一氏（当プログラム運営委員会委員長・明治大学）

3. オリエンテーション【第1・2・3日】

PDCA サイクルの構築手法、思考法、評価手法を解説するとともに、プログラム内容の説明を行います。

4. グループ討議【第1・2・3日】

少人数のグループを編成しグループ活動を行います。参加者間の意見交換・議論、運営委員からのアドバイスを踏まえ、各グループで課題を完成させ、PDCA サイクルの理解を深めていきます。

5. 全体発表会【第1・3日】

グループ活動の成果を共有するために、グループ討議における検討結果を発表します。

6. 個人演習【第2・3日】

個人として課題に取り組み、PDCA サイクルの構築手法、思考法、評価手法を実践的に修得します。その後、グループ討議にて理解を深めていきます。

7. 交流会【第2日】

グループ内及び参加者間で、大学をめぐる環境変化や問題背景、また各大学や受講者自身の改革・改善に向けた取り組みを共有し、相互の懇親を深めます。

8. 事後レポート【研修後】

プログラムの成果を踏まえ、PDCA サイクルにしたがってレポートとしてまとめていただきます。後日、運営委員会からレポートに対する評価結果を各参加者にお送りします。＜事後レポート提出締切日：10月下旬、頁数：A4判6頁以内＞

【討議希望テーマの選択について】

参加申し込みにあたっては、「Plan 作成演習：グループ討議」（第1日）における討議希望テーマを次の3つの中から2つ選び（第1希望、第2希望）、参加申し込みの所定の欄に入力してください。

なお、討議希望テーマは、「Plan 作成演習」における仮想事業・プロジェクトの「目的」を設定するための項目であり、当該テーマに関する情報交換・収集のためのものではありません。グループは討議希望テーマ別に編成し、参加決定時に連絡いたします。運営の都合上、ご希望に添えないことがあります。予めご了承ください。

テーマ	討議内容
1. 学生支援 (修学・生活・キャリア支援)	学生支援（修学・生活・キャリア支援）についての課題、目的、それを達成するための具体的目標・評価指標・基準などから構成される Plan を作成します。
2. FD・SD 活動 (教職協働等)	大学機能の多様化に対応するための FD・SD 活動（教職協働等）についての課題、目的、それを達成するための具体的目標・評価指標・基準などから構成される Plan を作成します。
3. 教育・学習 (教育課程・学修成果)	学位を授与する教育機関として、教育の質保証を図るための課題、目的、それを達成するための具体的目標・評価指標・基準などから構成される Plan を作成します。

令和8年度PDCAサイクル修得プログラム日程表（予定）

	9	30	10	11	12	13	14	15	16	30	17	30	18	30
8月31日 (月)	Plan作成演習													
			研修全体ガイダンス（5分） 受付	グループ討議① （110分） オリエンテーション （35分） 事前レポート発表 （自己紹介・期待の共有等） テーマ・モデル大学の決定 ※適宜 休憩 現状分析と課題の抽出 目的・上位目的の決定		休憩		グループ討議② （170分） 達成目標・評価指標・評価基準の決定 行動目標・評価指標・評価基準の決定 ※適宜 休憩	成果物2点完成・データ提出・プレゼンテーション練習	休憩		全体発表会 （80分）		
9月1日 (火)	Check&Action演習													
	講評 （30分）	グループ振り返り （30分）	休憩 （20分）	オリエンテーション （30分）	グループ討議 （30分）	個人演習 （70分）	休憩 （60分）	グループ討議 （個人作業発表・グループ案作成） サンプル報告書の評価・分析の検証 ※適宜 休憩 （190分）	サンプル報告書のNext Planの策定	休憩 （20分）		交流会 （60分）		
9月2日 (水)	報告書評価演習													
	全体発表会 （60分）	質疑応答 （10分）	講評 （10分）	グループ振り返り （20分）	休憩 （20分）	オリエンテーション （30分）	個人演習 （30分）	休憩 （60分）	個人演習 （50分）	グループ討議 （個人作業発表・グループ案作成） サンプル報告書の構造理解・評価の実施 （110分）	休憩 （10分）	講評 （20分）	グループ振り返り （10分）	全体総括・閉会 （20分）

※ プログラム運営や時間配分は変更となる可能性があります。

■参加者の声（アンケートより）

- PDCA サイクルの導入は、組織力の向上に必要であることが理解できました。（教学部門・30 歳代）
- PDCA サイクルについて基礎知識がない自分でも理解することができました。（教学部門・30 歳代）
- 順序よくプログラムが組み立てられており、わかりやすかったです。（企画部門・30 歳代）
- 自己点検・評価活動に限らず、個別の政策立案や制度設計にも応用できる内容だと思いました。
- 他大学の方とグループ演習や討議を行うことで、刺激を受けました。（企画部門・30 歳代）
- 勉強不足が露呈し、ついていくのに精一杯でしたが、運営委員の方のお陰で、何とかやり遂げられました。（教学部門・20 歳代）

- このような研修に参加することは初めてで3日間やり遂げることができたか不安な気持ちで参加しましたが、とても密度の濃い時間を過ごすことができました。（経理部門・40 歳代）
- PDCA サイクルについて、体系立てて修得することができ、今後の業務に活かしていきたいと思います。（企画部門・30 歳代）
- 大学職員に必要な資質が身につくので、多くの方に参加してもらいたいです。特に、主任クラス（20 歳代～30 歳代）中堅職員に、ぜひ参加を勧めたいです。（広報部門・40 歳代）
- 学内のより多くの教職員に PDCA サイクルの考え方を体験してもらうことで、お互いに共通のフレームで、前向きに議論できるようになり、課題解決も推進されると感じました。（企画部門・30 歳代）